

最新デジタル矯正技工のコンビネーションを考える

Consideration about combination of latest digital orthodontic techniques

千葉 実 Minoru Chiba

株式会社アソインターナショナル・CAD/CAM 技術主任歯科技工士

審美歯科クリニック技工室勤務

IDA 国際デンタルアカデミー卒業

Dr P,K,トーマス ワクシングコース

桑田正博先生 シニアコース

阿部晴彦先生 総義歯コース

アソデンタル入社（現アソインターナショナル）

Dr Roth ワクシングコース

今年に入りまして、ますます SHU-lider や TADMAN などの 3D メタルプリントによる矯正装置がとても注目を集めています。それに伴い 3D メタルプリンターも既存メーカーや新たなメーカーから発売され始めました。なかでも小型のデンタル用が数メーカーから発売されるなど、今後歯科での運用がかなり予想される所です。今年のドイツ IDS でも 3D メタルプリンターがとても多く展示があったことをみればそれは確実に起こると予想されます。

そんな中 SHU-lider は先日の WSLO でもとても話題に上がっていて、弊社 ASO インターナショナルとしてもとても有難く思うとともに、ますます頑張らなくてはならないと気を引き締めたところです。そのような話題の中で、SHU-lider の使い方に一つの方向性が見えてきました。他の装置やシステムと組み合わせて使うという事が、使用されている先生方の意見として非常に多く感じられます。多いのはアライナーとの組み合わせです。アライナーでの遠心移動はステージングの多さで患者様の負担になってしまいます。そこで SHU-lider で先に遠心移動を行ってからアライナーを入れるという事です。その他、Harmony や Incognito などのようなリングシステムと組み合わせをしたり、CBCT データによる歯根連動のセットアップが可能な Symphony などとの組み合わせです。要するに動かしづらい歯牙は先に動かしてしまおうという事です。

弊社 ASO インターナショナルはデジタル商品をはじめ、昔から使用しているアナログ的な装置まで 100 種類以上の装置を製作することができます。あらゆるコンビネーションでの使い方が可能になっています。本公演では、そんな装置と最新のデジタル矯正装置の組み合わせを考えてみたいと思います。

昨年株式会社 ASO インターナショナルは東京証券市場のスタンダードに上場を致しました。これからも歯科技工士という職業の認知度を上げるとともに、歯科技工士の地位向上を目指して頑張っていきます。今後とも宜しくお願い致します。